

ジュディス・バトラー

生と哲学を賭けた闘い

藤高和輝著

「バトラーは単に「哲学者」であるのではない」へ哲学という制度の外部に排除された「生」を哲学の内部に翻訳し、それを通して哲学の境界線に変容を促し、それを押し広げようとする、まさにその実践にこそある。ジュディス・バトラーは、フェミニズム理論やゲイ&レズビアン・スタディーズを軸に多様な学問分野を横断することで自身の理論を構築してきた気鋭の哲学者である。本書はバトラーの「生と哲学を賭けた闘い」の軌跡を追いながら、その思想的核心に迫る。難解とされるバトラーのテクストを解説、「共にとり乱しながら思考すること」への応答を通して「生」への再考を促す論拠を説く。



ジュディス・バトラー
生と哲学を賭けた闘い

Judith Butler

B6判 / 343頁 / 3500円
以文社